

## 令和4年度第1回静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会会議録

日時	令和4年7月26日(火)午後4時から午後6時15分
場所	静岡県立看護専門学校会議室、Web会議システムZoomを接続
出席者 職・氏名	(委員) 平賀聖悟(三島総合病院名誉院長) 杉山眞澄(静岡県立大学准教授) 石田盛己(個人) (委員3名 敬称略、順不同) (学校) 鈴木隆一校長、稲寿美代副校長、山本晃総務課長、長谷川明子看護1学科長、廣瀬順助産学科長、勝俣直哉総務課主査
議題	・学校自己評価について
配布資料	・令和3年度静岡県立看護専門学校自己評価表

### 1 結果概要

- ・静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会設置規程に基づき、委員の互選により委員長を平賀委員に決定した。
- ・学校自己評価について資料1に基づき概要を説明した後、各委員から御意見をいただいた。

### 2 開会あいさつ

(鈴木校長)

本日は学校関係者評価委員会の開催にあたり、委員の皆様には御多忙の中御出席いただき、お礼申し上げます。

本委員会は令和2年度に設置し今回が3回目の開催となる。従前から学校自己評価は行ってきたが、その結果に対して、専門的な知見を有する外部の学校関係者から御意見をいただき、学校の運営等に係る改善方を検討し、実施に向けて取り組むため、本会議を設置したという経緯がある。加えて高等教育の修学支援新制度、いわゆる高等教育の無償化における養成機関としての要件を満たすため開催する会議として位置づけている点も申し添える。

今回評価の対象期間である令和3年度については、コロナ禍で臨地における実習が難しい場合には、学内での実習に切り替えるなど通常ではない学校運営となったが、学生の学びの質を低下させることがないよう工夫して取り組んだ。また、教育活動の成果として国家試験において、看護1学科、看護2学科、助産学科の3学科とも合格率100%を達成することができた。こうしたことを踏まえ、学校として自己評価を行ったところである。

委員の皆様には、当校の学校運営や教育活動等に関する令和3年度の自己評価、取組状況について、忌憚のない御意見をいただきたい。

### 3 学校自己評価について

#### ・令和3年度の取組、職員アンケート、学校自己評価の説明

教育理念・学校運営等の9大項目について各項目ごとに、鈴木校長から、令和3年度の取組、職員アンケート結果、これらを踏まえた学校自己評価結果を、資料1に沿って説明のうえ、各委員から自己評価結果に対する評価、御意見をいただいた。

## ・委員からの質疑、評価

### (1) 教育理念・目標

(平賀委員)

カリキュラム改正については、自分が教えている科目についても変更があり、講義を編成する上でも戸惑いがあった。カリキュラム改正のポイントはこういったところか。この点を確認したい。

(長谷川学科長)

看護学科のカリキュラム改正としてはポイントが3つある。臨床判断能力を高めること、多職種とのコミュニケーションの強化、ICT化の3つである。単位数や授業時間数については学校の裁量に任せられるが、地域在宅医療の強化が必要であるため、地域在宅医療の単位数を増やした。

(廣瀬学科長)

地域性や、助産診断力のうち、特に異常時への対応の時間数、単位数が増えることになった。当校の助産学科では地域性という部分を大切にしているので、そういった部分の内容の見直し、また、助産診断力の強化という部分でも時間数を大幅に増やした。異常時の対応については、演習を多めに設け、医師に指導してもらうなど演習内容を強化した。これらの部分が、カリキュラム改正のポイントである。

(平賀委員)

知りたい部分については確認できた。職員アンケートの評価点数については、昨年度との比較を用意してもらえて良かった。評価点数を確認すると、全体的に改善の傾向が見られる。カリキュラム改正の動きの中で評価が上昇したのは評価できる。

(杉山委員)

職員アンケート結果は学科ごとの区分けはあるか。

(校長)

区分けは行っていない。

(杉山委員)

学校の理念などが学生・保護者等に周知されているかという点については、学科ごとに違いが出るのではないかと思い確認した。全体的に評価点が上がっているが、学生・保護者等への周知の評価が、この中では低い。いかに、具体的に分かりやすく説明できるかということがポイントだと思う。説明の仕方なども、教員で統一できれば良い。概ね評点が上がっているので、ここは評価できると思う。

(石田委員)

学校の理念・目的等が学生・保護者に周知されているかという点については、毎年厳しい評価

が出ている部分であったと思う。昨年度と比較すると、評点は上がっているし、取組についても、学生の名札の裏面に理念を記載することや、入学前オリエンテーションの通知に文書を同封することなど、様々な取組も行われている。こういった取組を行うことで、徐々に浸透していくのではないかと思う。このまま色々な取組を続けていただきたい。

## (2) 学校運営

(平賀委員)

ICT化については、先ほどのカリキュラム改正でも柱の一つであると確認した。まさにこれに取り組んでいる最中であると思うが、看護学校におけるICT化とは、どういったものであるのか見えてこない。

infoClipper や ANPIC については、説明を聞いて内容が分かった。こういったものを導入することで、出席管理や情報発信等の事務処理の簡素化とあるが、マンパワーが不要になったなどの具体的な成果はあるか。ICT化が複雑だと、余計に人手がかかったり、勉強も必要になるなどといったケースもある。事務処理の簡素化について、人も含めて、具体的な成果などあれば教えて欲しい。

(長谷川学科長)

成績管理については今までエクセルで成績を入力していた。講義ごと教員ごとに複数のシートに入力する必要があり、かなりの手が必要であった。また、入力に慣れていない教員が計算式を消してしまうなど、表計算に不具合を起し、間違えが発生しやすい状態にあった。

infoClipper のシステムを入れることで、入力することには変わりはないが、手入力での人的な間違いはなくなった。また、教務課の事務職員が入力を行えるようになったことで、教員が入力に時間を取られることがなくなったという利点がある。出欠席の管理についても、今まで処理が煩雑であったが、一括管理できることで事務処理の簡素化につながっている。

(平賀委員)

そういった効果の延長に、先生方の研修時間の確保や、教員本来の時間の確保などといったこともあるだろう。これらを含めて、一步前進といった感じだろう。

(稲副校長)

infoClipper のシステムは機能を追加することもできるので、成績を保護者に伝えるツールとしても使えないかといった検討や、電子教科書の導入の検討などを始めている。

(杉山委員)

学校で成績管理に使っていたエクセル表は、エクセルに強い職員が作ったと聞いていたが、システムで完成されたものを導入するという方が間違いがないので、この点は良かったと思う。

こういった物を入れたからと言ってすぐに業務の効率化が図られるかと言うとなかなか簡単なものでもないように思う。私の大学でも、リモートの授業と対面の授業を並行して行ったが、二度手間のような大変さがあった。学生の不利益がないという部分では、こういったものを導入し

ないといけないので、今後は、教員の慣れや使いこなすという部分になってくると思う。

濃厚接触者など、学校に来ることができない学生に対し、リモートで授業を行うことはあったか。

(長谷川学科長)

濃厚接触者等がリモートで授業に参加するということはなかった。幸いにして陽性になった学生や濃厚接触者になった学生が非常に少ない人数だったので、大きな影響は出なかった。感染予防を徹底した結果だったと思う。

外部講師の先生によってはリモートでお願いしたいという特定の先生がいたが、看護学科では実施回数が少なかった。

(杉山委員)

リモートの授業については慣れてしまえば、学生側は録音もでき、復習という意味でも良いものであると思う。

この項目の中で、教育活動に対する情報公開の評価点が若干落ちていることが気になった。この点をどのように捉えているのか確認したい。

(稲副校長)

コロナ禍で行事等をなかなか行えない中で、学校がどういう場所なのかという公開の場が、従来よりも少なかったということが、この評価に表れているのではないかと思う。

(杉山委員)

私の学校ではオープンキャンパスがリモートになった。今はその映像やパワーポイントを、担当を決め、学科ごとに準備している。実習や教育活動などを映像で撮って、オープンキャンパスの機会だけではなく、定期的に流していくと、学校への理解も高まると思う。日頃から、文字だけではなくて映像という形で残していくと良いのではないかと思う。

(稲副校長)

先日、助産学科では学校説明会をリモートで行い、杉山委員から御意見をいただいた内容にも取り組んでいる。学生が実習をしている場面をタブレットでリアルタイムで撮影して紹介したほか、質疑応答の部分では在校生や卒業生が対応した。8月の看護学科の学校説明会についても、同様の形式で予定している。

(平賀委員)

情報公開という観点から、もう少しホームページを見てもらえると良い。受験生は見るかもしれないが、もう少し広く見てもらえるように、杉山委員のお話も含めて、ホームページを活用することも良いのではないか。この委員会の情報がホームページに出ていること自体あまり知られていないだろう。

せっかくホームページを作っているのだから、ホームページにも学校の活動を掲載し、広く見

てもらう。ホームページを作ってあっても見てもらわないと意味がない。

(石田委員)

私も今回改めて学校のホームページを確認した。昨年度の学校関係者評価委員会の議事録がホームページ上に公開されているが、どこに掲載されているかを確認したところ、学費の項目に掲載されていて、少し不思議に思った。学校関係者評価委員会の議事録の公開というのも、教育活動に関する情報公開になると思うので、もう少し掲載場所を考えても良いのではないかと思った。

(平賀委員)

人事給与財務等の評価が落ちている点が気になる。当初から法規関係や組織的な規定というのは整備されているという評価であった。今回も職員アンケート結果で高い評価ではあるが、若干ではあるが、昨年度よりも下がっていることが気になった。何か思い当たるようなところがあるか確認したい。

(鈴木校長)

令和2年度と3年度を比較して改善している項目が多い中、御指摘の評価項目の評価が下がっている理由については、整備済みの規程を改めた時に、評価を下げる理由が生じることはあると思うが、本規程は元々整備されている状態であったので、学校側としては疑問がある。例えば、教務の部分の規程の整備について、何か問題があると捉えている可能性もあるので、こういった部分については、確認をしていく必要があると考えている。

(平賀委員)

元々はかなり高い評価であったと思うので、現状維持できると良い。あまり良くないという印象を職員の方が持っていたとすると、モチベーションにも影響するので、この点は気になる部分である。学校運営の中で検討してもらえると良い。

### **(3) 教育活動**

(平賀委員)

この項目についても、評価点の上では、全体的に概ね改善している。一番最後の職員の能力の開発のための研修については、コロナの影響はあるか。学会もそうだが、研修会なども会場での研修は縮小され、リモートになるなどしている。この状況を踏まえれば、ここは通常の評価である。教員は校内の授業だけでなく実習にも行かないといけなくて、なかなか勉強する時間が取れないのであろう。研修については前回も前々回も、教員が忙し過ぎてしまい、参加の機会がないという評価であったと記憶している。心配をしている項目の一つであった。この評価項目が前回よりもさらに悪くなっているような状態では困るが、コロナという特殊な状況下で、平時とは異なる。学校自己評価の中では、受講の機会を確保したとは書いてあるが、職員アンケート結果は下がっているの、学校側はどのように捉えているか。

(稲副校長)

県看護協会の研修などについては、希望する職員が参加することができている。平賀委員の御指摘の通り、いろいろな研修が中止等になってしまっているのも、興味のある内容の研修に参加できる機会が得られなかったという部分もある。また、昨年度はカリキュラム改正の作業があったので、研修時間を多くとることができなかったといった状況もある。

こういった状況であり機会は限られたが、希望がある範囲では研修に参加することができている。日々の教育活動に活かせるように、学校としては参加の機会を確保している。

(平賀委員)

この項目では、もう一点確認したいところがある。学校自己評価に、外部講師や実習施設等と、現場で求められる現任教育の現状等を意見交換し、教育内容に反映させていくという記載がある。

以前、この学校の強化検討委員会で、私が主張したものだが、年1回か2回、外部講師の先生を集め、学校の現状を報告し、意見交換をする講師会というものを提案し、何度か実施してもらっていたが、今は無くなってしまった。私は、この評価委員会で教員と意見交換ができる機会があるが、それ以外の外部講師の先生については、学校に来て、教えて帰るだけになってしまっている。

この現状はこの取組と矛盾するものであると思う。こういった機会がなぜなくなったのかはわからないが、講師会のように、外部講師の先生との顔合わせや報告のプランは持っていた方がよい。第1回の講師会は外の会場で行い、多くの外部講師の先生方が参加していた。県の地域医療課が担当していた。学校側は現在のカリキュラムの状況や学生の状況、学校運営の話などを報告していた。本項目の課題に沿った活動の一環であると思うので、こういった機会は是非検討して欲しい。

(杉山委員)

講師会を開催していたことは知っている。講師会は良いと思う。私も外部講師の形で入らせていただいているが、カリキュラムが変わったことについて、自分が担当する部分は分かるが、変わった部分の全体の中の位置付けがしっかりと分からないまま講義を行ってしまった部分もある。

平賀委員の御意見のとおり、講師会などをやってもらえれば、カリキュラム全体の改正点や、それぞれの講師に期待する部分なども、もう少し理解できるのではないかと思う。職員の研修に関しては、コロナ禍ではあるが、研修の方法は集合研修だけではないので、もう少し工夫してもらえたら良いのではないかと思う。

(石田委員)

講師会については何回か出席した経験がある。色々な分野の先生方が参加している会で、そういったところで話を聞くと、私自身も参考になる話を聞くことができた。平賀委員や、杉山委員の話の通り、外部講師の立場としても、カリキュラムへの理解など、色々と分かりやすくなっていく部分もあるので、そういった機会を設けてもらえたら良いと思う。

#### (4) 学習成果

(平賀委員)

国家試験合格率 100%という目標を達成できたのでこれは素晴らしい成果だと思う。しかし、教えていて感じるのは、学生数が減ったということ。もちろん、講師側としては負担が減っていることではあるが、学生数が減っているということは心配なことではある。

看護 1 学科も年々減少傾向にあり、看護 2 学科も入学生が 3 人となっている。一定のライン以上の学生しかとらないということも一つの方法だとは思う。入学後、3 年間の教育が重要であるので、成果は出せていると思う。

学生数が減っているということが気になるので実情を確認したい。やはり一定レベル以上じゃないと合格させないのか。私学だと、定員を満たすため、ラインを下げて合格させることもあると思う。合格者の状況はどうか。

(稲副校長)

2 年前に沼津市内に看護大学が開校している。新聞等での報道では、定員 100 人に対し入学者が 83 人ということであった。同じ東部地域に 100 人規模の看護学校ができたということのほか、合格を出しても辞退をする学生もいる。看護師を目指す時に、大学志向の学生も多く、専門学校よりも大学への進学を選ぶ学生が増えているのも事実である。

本校への受験については、多くの方に受験していただいているが、入学してからの学業を考えると、一定以上の成績が必要であるし、面接では適性を確認する必要もある。ある程度の人数の合格者を出しているところではあるが、辞退者も多く、定員を割ってしまっている状況にある。

(平賀委員)

確かに状況は変わってきていると思う。4 年制の東都大学が沼津に出来た影響も少しはあるのだろう。この学校の強みは県立である。県立で授業料が安く質が高い、周囲からそういった声も聞こえてくる。看護協会などから聞いても、看護師の 4 年制志向の流れがあるのは間違いない。こういった影響もなきにしもあらずということだろうか。応募者の総数も減っているのか。

(鈴木校長)

志願者については減少している傾向はない。東都大学ができたということで、どういった影響があるのか分析したが、志願者は減ってはいないが、4 年制大学を併願している志願者は多い。先ほどの通り、合格者は定員以上出してはいるが、辞退者が多くなってきている。4 年制大学を受けるような学力がある学生が辞退をしている傾向がある。本校に合格をした学生には是非入学してもらいたいが、こういった背景も、人数が減ってきている要因の一つである。

授業料が安いという部分については、県立であり、私立に比べれば安い、近隣の公立の学校には、当校よりも授業料が安い学校もあるので、授業料だけが、すぐに魅力につながるということはないと考えている。

(平賀委員)

さらに授業料を安くして、優秀な人材を集めるというのも悪いことではないと思う。

(鈴木校長)

辞退が多いという状況は、この学校に来たいという学生が減っているということが考えられる。この学校の魅力として何を出していけるのかということを検討しなければいけない。課題の1つであると認識している。

(平賀委員)

優秀な人材を多く集めることができるような思い切った方法を考えて欲しい。

(杉山委員)

国家試験の全員合格というのは、何よりも評価を受けることができるポイントなので良かったと思う。

退学者については、学習をしていく間にモチベーションが落ちてしまうということがある。こういった学生をどのように維持していくのかと考えると、そこには動機があると思う。中には看護師に向いていないのではないかと思うような学生もいると思う。私のいる大学でも同じだが、資格を取得した方が良いからと、親や周囲から勧められて入ってくる学生もいる。こういった学生で挫折をする学生が、コロナ禍ということもあり多い。退学でなくても留年も多い。退学がこの程度で留まっているのは、学校としても頑張っているんだろうなど、評価したい。

東部看護専門学校時代から、先輩方が非常に学校のことを愛してくださり、PRもしてくれる。実習時の先輩方の受け入れは非常に手厚く、実感している。卒業生との交流会のようなものがあると、就職に向けても非常に良いし、学校の雰囲気も良くなっていくのではないかと思う。

(石田委員)

国家試験 100%合格については非常に良かった。先生方の自己評価を確認すると、毎年思うところではあるが、厳しめに付けているのかなと感じる部分がある。国家試験合格率が100%、退学者数も減っているというのは、確実に先生方の教育の成果であると思う。

自分たちの何が良かったのか、どういったことをしたことで効果が表れ上手くいったのかということを、先生方に考えて欲しい。こういったポジティブな面について、先生一人一人が認識できると、一人一人の自信にも繋がる。こういったことが良かったんだということが分かれば、次の学生に対する教育指導に生きてくる。上手くいった部分について考える機会を持つと良いのではないかと思う。

退学率については、先ほどの杉山委員の意見にあったモチベーションというものが大きく関係すると思う。私はカウンセラーの他に心理学の講義も担当している。心理学の講義の中には、モチベーション、動機付けの部分があり、どういった理由で学校に入ってきたのかという動機付けについて、毎年確認している。学校側でも、学生のモチベーションを掲示物にして教室に貼ってある。目に見える形で学生のモチベーションを高めるような取組をしていることが良く分かる。こういった部分も、合格率や退学率の改善に影響しているのではないかと思う。



今年の1年生の入学動機には、高校や親に勧められたというものが一人もいなかった。昨年度まではいた。自分自身または家族が病気で入院した時に看護師さんにお世話になったので自分自身もそういった仕事をしたいというもののほか、身近で働く親や兄弟が看護師として働いているからといった理由もあった。それぞれが、自分自身のモチベーションを持って入学してきており、学生の意識も変わってきているのかな、良い変化であるなど感じている。学校側でもそういった動機付けを大切にするという取組をやっている成果として、学生一人ひとりの意識の高まりのようなものが出てきているのではないかと思う。

成果が出ている部分については、学校としても謙虚にならずに、自信を持って、自分たちがこういった取組をしたから上手くいったんだ、ということを確認してやってもらえたら良いと思う。

## **(5) 学生支援**

(平賀委員)

カウンセラーを増やしたり、学校で相談窓口を設けることはとても良いことである。広く大学などでも行われている取組であると思う。カウンセリングを受ける学生はどのくらいの人数がいるのか。

(稲副校長)

月によっても違うが、昨日は2名がカウンセリングを受けている。月に3人から4人がカウンセリングを受けている。

(平賀委員)

カウンセリングの内容については学校側は全く把握していないのか。

(稲副校長)

必要な学生にカウンセリングを勧めることもあるので、カウンセリングを受ける背景は承知をしているが、カウンセリング時にどのようなやり取りをしたかという具体的な部分は、全数確認はしていない。

(平賀委員)

カウンセリングの詳細は分からなくても、カウンセリングを受けている理由は分からないのか。分かれば他の学生支援に活かしていける部分もあるのではないかと思う。

(稲副校長)

担任の教員も面談の機会を持っているので、気になる学生については随時相談の機会を設け、状況を把握をしている。私はこの学校に赴任して1年目だが、担任が行う面談の多さを実感している。

(平賀委員)

最近の学生の気質には共通の部分もあると思う。せっかくカウンセリングを受けられる体制を持っているので、学校をより良くするために活かして欲しい。個々の学生のカウンセリングをして終わりではなく、最近の学生が抱えている悩みなどを理解し、学生支援の部分に活かせると良いと思う。石田委員が実際に学生にお会いしていると思うが、このあたりの実感としてはどうか。

(石田委員)

カウンセリングについては、学生本人が自主的に相談に来るケースもあるし、教員の方からカウンセリングを勧めるというケースもかなりある。特に教員の方から勧められるケースについては、カウンセラーと学生の相談だけで終わらず、この件については担任の先生達としっかりと話を共有しながら進める方が良いということ、学生本人から了解を得た上で、学校側にお伝えし、三者で協力して問題の解決に努めていくということもある。

もちろんカウンセリングには守秘義務があるが、学校の様々な悩みは、学校と協力して解決していく方が現実的に上手く行くので、本人の了解を得た上で、出来るだけこういった形を取れる方が良いと思う。

(杉山委員)

カウンセリングの話については、対象が増えているのだと思う。私の大学だと、カウンセリングの先生が来校すると、3人に1人は教員がカウンセリングを受けているような状態もある。カウンセリングの先生が空いている時間があれば、教員の悩みも聞いてもらえると良いのではないかと思う。

私の大学では、障害学生の支援制度というものを採用している。発達障害の学生もいるので、例えば授業の受け方や、実習への参加の仕方などのルールづくりのときには、カウンセラーの先生に入ってもらった。カルテのようなものを作り、教員間で共有している。また、この学生についてはどういった授業の参加のさせ方を認めるのかという、支援計画というものを作っている。問題になるほどの学生がいなければ良いが、私の担当する学生にもそういった学生がいる。試験の時などにすぐに出られるように、一番廊下側の後ろの席に座らせて欲しいといったことを認めている。こういったことについて、カウンセリングの先生と一緒に支援をしていくということが、これから必要になることもあるかもしれない。

(平賀委員)

課外活動の支援にはアルバイトも入るかどうかという部分もあるが、コロナ禍で学生がアルバイトができず、経済的に困窮している学生も出ていると聞いている。職員アンケートでは、課外活動に対する支援体制の評価点が落ちている。こういったことに対し学校側の対応策はあるか。

(稲副校長)

サークル活動、ボランティア活動等の課外活動については、コロナ禍の影響で規制しており実施出来ていない。アルバイトについては、感染症対策の一つとして、原則禁止としているが、経済的な理由などもあるので、学校に届出し、必要な場合には許可を出している。ただし、コロナ

禍であり、医療機関等様々な施設で実習を受け入れてもらっているのです、この部分については厳重に対応をしている。

(平賀委員)

実際にアルバイトの許可を出している学生はいるか。

(稲副校長)

今年度は該当の学生はいないが、昨年度は経済的な理由からアルバイトを許可した学生がいた。

(平賀委員)

許可を出していても、コロナ禍でアルバイトがなくなってしまうということもあるので、心配したところである。

(稲副校長)

経済的な支援については、授業料の減免制度や、各種奨学金制度などについて、学生に対して丁寧に説明をしている。かなりの人数の学生が、病院からの奨学金や、公的な奨学金を活用しながら、看護師等資格の取得に向け学業に励んでいる。

(石田委員)

経済的な負担は、メンタル面にも影響する部分でもある。遠方から入学をしている学生は、アパートを借りて一人暮らしをしている学生もいると思う。授業料の減免や給付奨学金だけでは足りず、病院の奨学金を借りている学生もかなりいる。学生時代の奨学金などの借金について、卒業後の負担が大きいことが、全国的な問題にもなっている。難しい部分ではあるが、学生のメンタル面の健康という部分にも影響してくるので、経済的な支援がさらにできる方法があると良い。

## **(6) 教育環境**

(平賀委員)

この項目については、職員のアンケート結果でも、評価が改善している。新型コロナウイルス感染症の陽性者が学生で出たとしてもクラスターにならずに単発で終わっている。現場で新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行うことができている評価の表れであると思う。

(杉山委員)

臨地実習に行く前に、抗原検査等を行う計画はあるか。

(稲副校長)

実習前に各病院と事前に調整している。各病院の要望や体制によって、学内で検査をしてから送り出す場合、事前に実習病院に検体を持ち込み検査をしてもらう場合、臨地実習初日に病院で検査をしてもらう場合など、病院の要望や体勢によって対応している。

(杉山委員)

受け入れ病院と協力して臨地実習が行われていることが分かったので良かった。私の大学では、抗原検査キットを用意し、必要な場合には検査をしてから実習に行くようにという指示も出ている。昨年度は、実習を断られたというような病院もあったので、事前に実習病院と調整をすることはとても大事であると思う。

私が講義に行った際も、以前に比べ各機材がスムーズに使えるようになるなど、視聴覚室も使いやすくなったと実感している。防災に関しても、いつ何が起こるかわからないので防災訓練については引き続き実施してもらえると良い。

(石田委員)

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、私の講義も、後半の2コマをリモートで実施した。講師側としては、何とかあったかなという実感がある。対面の授業が一番良いが、どうしても難しい場合には、遠隔でやることもできた。状況に合わせて対応ができたということは、学校の対応としても良かったのではないかと思う。

防災訓練については、昨年度も静岡県熱海市の土石流災害、つい最近も地震があるなど、どういったことが起こるか分からない。コロナの心配はあるが、防災訓練については、引き続き実施してもらえると良い。

## **(7) 学生の受入れ募集**

(平賀委員)

職員アンケート結果の評価点も高くなっている。学校説明会など学生の受入れ募集の活動が評価されたことである。これをさらに発展させるのが、ICTの活用だと思う。ホームページや、県公式LINEやTwitterを活用しているとのことなので、さらに広く身近な形で色々な人に見てもらい、学校の活動を知ってもらおうと、学生の応募が増えたり、この学校の存在意義を高めることにつながると思う。引き続き頑張って取り組んで欲しい。

(杉山委員)

職員アンケート結果の評価点も高く、頑張っていることが分かる。先生方も高校などの説明会に熱心に参加するなど、こういった成果が出ているのかもしれない。

ホームページなどでも、学生にはできるだけ参加してもらい、外に向けて発信できると、身近に感じ良いのではないかと思う。国家試験合格率100%は学校の売りにもなるので、PRに是非使って欲しい。私の大学の薬学部では、合格発表があった日にホームページで公表していた。

(石田委員)

学生の受け入れ募集については、積極的な学校説明会の開催、県内全ての高校に募集要項の送付、看護2学科についても准看護師が就業する施設への資料の送付、高校からの進路説明の要請を受けて説明会を開催し高校生に看護師という職業を知ってもらう機会を提供するなど、積極的に先生方が動いているということが分かって良かった。

学校のホームページだけでなく、LINE や Twitter 等の各種 SNS を活用されているようである。色々な手法を使って PR をすることは大事なことで、この点も良かったと思う。学校説明会については、新型コロナウイルス感染症対策として Web 開催ということであったが、Web 方式の良いところとして、参加し易さがある。東部地域から進学する学生が多いとは言っても、東部地域も広く、学校まで足を運ぶのも大変な部分もあるので、こういった意味でもすごく良い方法だと思う。

今年度もそれぞれの学科で学校説明会が計画されている。学校説明会には、学生との質問会のコーナーが設けられており、受験を考えている高校生などと、実際に学んでいる学生が会話をする機会が作られているのはとても大事なことであると思う。

ホームページを確認すると学校紹介の動画が掲載されていた。学校の中を映し、各教室などを巡る動画であり、これを見ているだけでも学校の様子が分かった。この前の項目でも動画による発信についての御意見もあったが、映像の発信というのは効果的であると思うので、今掲載している動画以外でも、学生が実際に演習をしている様子のように、普段の学校の教育活動を伝えることができる動画なども良いのではないかと思う。

## **(8) 法令等の遵守**

(平賀委員)

この項目については、過去2回の評価委員会でも一番良かったと思う。県立の学校として法律に基づいた運営がなされているということが良く分かり評価できる。

学校関係者評価委員会について、本評価委員会が法令等に基づき開催されているという記載となっているが、本評価委員会は学校運営に関する諸課題を解決するものであるため、アドバイザーボードの立ち位置のように、学校運営や教育活動につながる話であると思う。法令等に基づいて委員会を作ったということだけでは意義が小さい。学校を良くするために委員会を発足しているため、学校運営などの他の項目でも評価できると良い。法令に基づいて運営されたというのは当然のことではあるが、先生方もそういった意識を持っていることは良かった。

(杉山委員)

評価委員会については、平賀委員の御意見のとおりである。一番気をつけて欲しいのが個人情報の保護、漏洩についてである。この点については引き続き、職員、学生に対してしっかりと教育、徹底すること、また、チェックができる体制を作ることが大切であると思う。すでに行われていることであると思うが、引き続き取り組んで欲しい。

(石田委員)

自己評価の問題点の改善を行っているかということについては、「やや不適切」が9人いるが、「不適切」と回答した職員が0人だった。昨年度の本委員会で意見を言わせてもらったことについても、色々取り組んでもらえたという実感がある。例えば、職員アンケートの文言については、学校の実態と合っていないのでは無いかという意見に対し、学校の実態に合わせたアンケート評価項目に修正されている。職員アンケート結果の前年度との比較についても学校側から提示があった。また、本日の資料についても、令和3年度の取組状況、評価や取組が順番に書かれて

おり、非常に分かりやすかった。委員自身としても、こういった資料を配布してもらえると非常に分かり易いし、本委員会が出た意見に対して取り組んでいる動きも分かるので、とても良かったと思う。

## (9) 社会貢献

(平賀委員)

清水町と福祉避難所としての協定を締結したことや、消防学校への講師の派遣、薬剤師会主催のワクチン接種講習会へ協力、看護協会への講師としての教員派遣などを行われていることを確認すると、職員アンケート結果が昨年度よりも低くなっていることは、実際の活動状況と合っていない。これらの取組が、職員の間で周知されていないのかもしれない。

昨年度の評価委員会では、対外的な事業があまりなかったのもう少し一定の活動をやってはどうかということをお願いしたが、現状では、コロナ禍で大変な中ではあるが、コロナや災害に関連する出来る範囲のことはやられていると思う。社会貢献に一步前進したのではないかと思うので、評価できる項目である。

消防署との連携は、私たち病院でも良く行うことであり、例えば AED 講習会をやっている。この学校にも AED が設置されていると思うが、AED の使い方を指導して教えられるのが消防署の職員である。消防署と交流が出来るのであれば、学校で AED 講習会などをやってもらってもいいのではないか。現状は教科書の心肺蘇生法などで触れる程度だと思う。実際に講習を受けると修了証が出る。看護や医療に携わる学生にとっても実益があると思う。カリキュラム上、時間を確保できないのかもしれないが、是非検討して欲しい。こういった取組が更にできると、社会貢献、地域の絆という部分で、さらに前進できるのではないかと思う。

(杉山委員)

令和 3 年度の取組状況を確認すると、職員アンケートの評価を低く付ける必要は無いのではないかという印象である。社会貢献や地域貢献の基準について、どのくらいやれば良いのかという一律の標準的な基準を、先生方が持っていないのであろう。何が出来るのかということを経験者で話し合うことや、やったことを書き出してみんなで共有すると良いと思う。

また、ホームページで、やっていることを広くアピールすることも重要だと思う。例えば小中学校のホームページを確認すると、地域での清掃活動などが掲載されている。学校として、これだけのことに取り組んでいるのであれば、社会貢献や地域貢献に繋がることであると思うので、まずは意識化することが必要であると思う。まずは皆で話し合ったり、確認をする場を作ると、自分たちがやっているんだという自信にもつながる。学校の PR にもなるので、是非こういった取組をして欲しい。現在の取組内容は、決して、職員アンケート結果の 2.0 点の評価では無いと思う。

(石田委員)

評価項目については、実際の活動状況よりも、職員アンケート結果の評点が低くなっているんだろうと感じている。例えばコロナ禍の前であれば、文化祭に地域の方を招待し、地域貢献につながる場もあったと思うが、文化祭も中止となり、実際に出来なかったという部分もあったので

あろう。

杉山委員の意見のとおり、ここに書かれていることだけでも、色々な活動をされているので、近隣の地域との接点は減ってしまっているかもしれないが、コロナウイルス関連などの取組も地域貢献には変わりはないので、先生方一人ひとりが認識できると良いのではないかと思う。

(平賀委員)

杉山委員の意見のとおりで、一つ一つの活動を確認すると、立派な地域貢献をされていると思う。教員の考える地域貢献とはどういったものなのか確認して欲しい。

(稲副校長)

自己評価項目以外で、学校運営に対する御意見があればお願いしたい。

(各委員)

特になし。

#### 4 閉会

(鈴木校長)

委員の皆様には、長時間にわたり御意見をいただき感謝申し上げます。私自身も本会議については昨年度に引き続き2回目となった。昨年の委員会の際に、学校に対する教員の評価が、実態よりも低いのではないかという印象を持った。また、委員会の中でも、委員の皆様から質問項目が分かりにくい点や、活動内容が教員に伝わっているのかといった御意見もいただいた。

本年度の会議に向けては、教員が実際に評価ができるように、職員アンケートの質問項目を改めたことや、今回の資料についても、昨年度と表の形式を見直し、職員アンケートの結果を踏まえた学校としての評価に加え、令和3年度にどういった活動に取り組んだのかということを確認にし、実態に即した形で評価をいただきたいという思いで実施した。

職員アンケート結果は全体的には前年度よりも上がっているが、一部で低い部分もある。本日の会議においても、講師会やホームページ掲載の分かりにくさなどの貴重な御意見もいただいた。日々の活動の中に反映させ、学校運営の改善に努めていきたい。

(稲副校長)

以上で、令和4年度静岡県立看護専門学校学校関係者評価委員会を終了する。